



小児がんセンターたより

小児がんとネット情報

今、巷で Chat GPT が話題です。なるほど、パソコンで質問してみると答えが返ってきます。試しに「肝芽腫になってしまいましたが、治りますか？」と入力してみました。答えは「肝芽腫は、肝臓にできる良性の腫瘍の一種であり、ほとんどの場合は自然に治癒することができます。一般的に、小さな肝芽腫は経過観察が推奨され、大きな腫瘍や症状がある場合は手術やその他の治療が必要になることがあります。」。ムムム・・・全く間違っています。無茶苦茶です。これを信じたら大変なことになります。

ネット情報一般に言えることですが、特に小児がん関連の情報は、玉石混交です。特に注意しなければならないのは個人が発信している闘病記的な情報で、その患者さんにしか当てはまらない治療経過、副作用、合併症などが書かれているものです。もちろん同様の合併症などで参考になることはありますが、同じ疾患でも患者さんによって病期、治療法、年齢、環境、すべて同一ではありません。藁にもすがる思いで情報検索をされるお気持ちは良く分かりますが、それを見て落ち込んでしまったり、主治医が信じられなくなったり、となればむしろ有害な情報になります。そういった情報を見て不安になった時は、一人で信じ込まず、主治医や小児がん相談室に率直にご相談されることが良いと思います。

こんどは「神奈川県立こども医療センターの評判はどうか？」と聞いてみました。

「神奈川県立こども医療センターは、医療の質が高く、スタッフの対応が丁寧であるという評判があります。また、設備が充実しており、専門性の高い治療が受けられることから、県内はもちろん、遠方からも患者が訪れることがあります。」と出ました。これは本当、と信じたいですね。

小児がんセンター長 北河 徳彦

CCS (子ども療養支援士) が採用されました!

神奈川県立こども医療センターでは、たくさんのこども達が入院、通院しておりますが、その過程で「採血」「MRI検査」「CT検査」「放射線治療」など、たくさんの処置や検査を受けてもらう事になります。こども達は「何をされるんだろう」という不安が強く、痛みを伴わない処置でも痛く感じたり不安が強くなったりすることがあります。

小児がんのお子さんは、入院が長期に渡り、多くの検査や処置を繰り返しており、たくさんの不安を抱えながら闘病生活を送っています。

そうした中、「チャイルドライフスペシャリスト (CLS)」や「子ども療養支援士 (CCS)」「ホスピタルプレイスペシャリスト (HPS)」という、こどもの立場に立って、さまざまな不安を軽減し、こどもが興味を持つ遊び等を用いながら、優しく寄り添い、こども達が発達に応じて治療を理解し前向きに取り組めるように支援して下さる職種の方々が、全国の病院で活動されています。

当センターでも、その必要性を強く感じており、今年度より新たに「子ども療養支援士 (CCS)」を採用できることとなりました。

現在は週 4 回勤務で、主に遊びを通してこどもとの信頼関係を作り、その中で検査や処置の前から関わり、成功したことでこども達が「できたよ!」と成功体験をかみしめ、入院生活に次第に慣れて明るく前向きに生活されている様子が見られています。一方たとえ検査や処置が思うようにできなくても「頑張った!」「今度は頑張れそう」と、次への意気込みを見せてくれるこども達もたくさんいます。これらのことを看護師や保育士や心理士など多職種の方々と連携し、支援を行っています。

これからもたくさんのこども達を笑顔に導いてくださることを期待しています。

「小児がんセンターより研修会などのお知らせ」

●2023 年度神奈川県小児がん従事者研修

- 5月16日(火) 脳腫瘍(終了)
- 6月20日(火) CCSの活動について
プリパレーションについて
- 7月18日(火) 支持療法/検査値の見方
- 8月15日(火) 肝芽腫
- 9月19日(火) 小児がんの感染症対策
- 10月17日(火) 腎腫瘍
- 11月21日(火) きょうだい支援

18:00~
19:00
WEB参加可能
(11/21は会場開催でグループワーク予定)

●小児がん啓発イベント

- 8月19日(土) こども医療センター体育館にて(内容企画中!)
- ※詳しくは、各施設に配布の案内もしくは小児がんセンターHPよりご確認ください



遊びを通じた支援の様子



各部門からのお知らせ



～神奈川県立横浜南支援学校～

「病院の中に学校があったら勉強もできて、友達とも話ができ、楽しいのになあ。」実は、こども医療センターの中にも、病院に入院している子どもたちのための「学校」があります。神奈川県立横浜南支援学校という、病弱特別支援学校です。本校には、小学部、中学部、重症心身障害児施設「ひだまり」にそれぞれに教室があります。本館病棟に入院している児童・生徒は、学校の教員が病棟へ行って授業を行っています。その日の体調を考慮して、ベッドサイドや病棟内の学習室、プレイルーム等で授業を受けます。

時には違う病棟の友達や、教室登校している友達とオンラインでつながる「つなぐ授業」を行い、同じ学年や学部の友達と一緒に学習したり、意見交換をしたりする機会を設けるように工夫しています。本館病棟に入院してくる子どもたちもさまざまですので、教科書を使って学習するだけでなく、一人ひとりに合った学習内容を保証しています。また、運動会や文化祭、遠足といった行事にも、参加できるよう方法を工夫しています。さらに、中学部では入院時期によって、病院の中で高校入試を受けることもあります。その際には、生徒の進路に関わる入試を問題なく進めていけるよう、病院・病棟とも連携して取り組んでいます。

「入院中の児童・生徒一人ひとりが安心して学びを継続し、個々の課題に応じた授業を実践する」を学校教育目標に掲げ、子どもたちに寄り添いながら、入院中の学習や成長はもちろんのこと、退院後の生活も視野に入れて、日々の教育活動に取り組んでいます。

学校長 峰尾 智子



地方独立行政法人 神奈川県立病院機構
神奈川県立

こども医療センター
Kanagawa Children's Medical Center

【発行元】

神奈川県立こども医療センター小児がんセンター
〒232-8555 神奈川県横浜市南区六ツ川 2-138-4
TEL : 045-711-2351 (代) Email : shounigan@kcmc.jp

2023年6月1日 第14号発行